



【令和2年度 活動報告】

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

- 好きっちゃ北九州!バスツアー 1
- 好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業
 - ・九州共立大学『共生社会を生きる』(前期講座) 2
 - ・北九州市立大学『地域の達人』 3
 - ・九州共立大学『共生社会を生きる』(後期講座) 4

■防災まちづくり事業

- 地域を見つめる防災まちづくり講座
 - ・筒井校区社協『まち歩き』(第1・2回) 5・6
 - ・親子ふれあいルームさざん乳幼児世帯向け講座 7
- 地区 Bousai 会議運営支援事業
 - ・大蔵 Bousai 会議(第5回) 8
 - ・平野地区 Bousai 会議 フォローアップ(第1~3回) 9~11
- あそぼうさい
 - ・八枝市民センター子ども講座 12
 - ・南丘市民センター子ども講座 13
 - ・長尾市民センター子ども講座 14
 - ・西戸畑市民センター子ども講座 15

講座・イベント:15回 活動対象:1,483人 参加メンバー:52人



好きっちゃん大人の修学旅行 風を感じて若松／魅せられて小倉南編



- 1 日時 令和2年10月4日（日）9：15～17：00
- 2 場所 【若松区】 軍艦防波堤、響灘風力発電施設、グリーンパーク等
【小倉南区】 無法松酒造、ドメーヌ・ル・ミヤキ、平尾台等
- 3 参加者 好きっちゃんメンバー14人



コロナ禍で活動がなかなかできない中、メンバー内で改めて北九州の魅力を感じるため、バスツアーをしました！

『共生社会を生きる』 ～災害から考える、自然・暮らしの中での共生～



- 1 日時 令和2年7月16日(木) 16:00~17:30
- 2 場所 九州共立大学
- 3 参加者 220人



毎年、前期・後期の2回、授業科目をいただいている共立大の「共生社会を生きる」自然・暮らしの共生について、災害から考えることについて依頼がありました。コロナ対策で、対面式の講義ができないなか、ZOOMを活用しての録画&配信による授業です。「自分の住むまちを見つめる」とはどういうことか、そのアプローチやヒントを順に解説しました。ワークショップなどができないため、講義・解説に終始する内容となってしまいましたが、詳細に話すことができたと思います。学生の皆さんが、今後自分の住むまちについて考える視座を得ていただけたなら嬉しいです。

『共生社会を生きる』
～災害から考える、自然・暮らしの中での共生～

●今日のポイント●

- ・ワークショップなし初めて・・・
- ・皆さんに関係のあるテーマで
- ・今後の人生に活かしてほしい
- ・自分の住む「まち」について

●まちを知る●

地名のポイント

- ①音に注目!
- ②地形由来のもの
伝承由来のもの
造語・願望地形のもの
- ③昔の地名が有用
町内会名、バス停、橋など

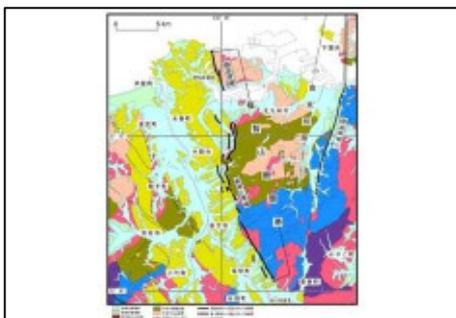
読み書きが難しい先人たちが
その土地のことを伝承してくれている

↓

地域を知る=地名・地形を見る
歴史的・伝承がある

↓

その地域の特徴や文化に触れる
その地域の過去に学び、礎を感じる



好きっちゃ! 共立大生! 大活躍!!

自分の住むまちを見つめることで、見えてくる地形やそれに応じた災害・・・。
自分や家族を守るためにも、まち・自然との向き合いや対峙は大切なことであり、それがまちや自然との共生ということだろうと考えます。学生にとって、何かのきっかけになれば良かったなと思います。

北九州市立大学特別講座 『地域の達人』



- 1 日時 令和2年9月17日(木) 11:00~12:30
- 2 場所 自宅からZOOM録画
- 3 参加者 700人

北九大生の約4分の1が受講する特別講座「地域の達人」にゲスト登壇。録画したものが配信されます。以下の3テーマで、地域創生学群の眞鍋教授と対談形式を交えた講義となりました。

①NPO法人好きっちゃ北九州の取組みの理由と狙い

活動概要を紹介したうえで、こだわっている理念について6つの要素に分けて講義しました。

『自分のまちを好きになってほしい!』

ぼくのまち、わたしのまちを紹介します
子ども達のシビックプライドの醸成!!

好きっちゃ北九州!
「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業
【プログラム内容】

可愛い子には旅をさせよ!
地域が交流することで、より自分のまちが見えてくる!

〇〇区民地域	〇〇区民地域
講1区	講2区
講3区	講4区
講5区	講6区

北九大の皆さんも大活躍!!

～事業の6つの特徴～

- 子どもが主役 体験型学習
- シビックプライド 郷土愛を育む
- 地域コミュニティ 共通のテーマ
- 鎮写し効果 区を越えた交流
- 第三者ファシリ よそ者効果
- 協働の まちづくり

②「共」の活動領域の存在・価値

社会をつくる「共」の分野や、NPOが貢献できる分野について講義しました。

地域づくりは
“共”の最大テーマ

【想いを重ねる最大公約数】
地域愛・子ども達の育み

『共』の存在とは?

【普段の生活での同様の例】
〇学園祭実行委員 〇各行事の運営 OPTA
〇自治会 〇地域の活動 〇誰も無い取組み など

【持論展開】
私がNPOを始めた理由

公(役所)では、達成できない課題が多い
小さく多様になる公(役所)

**自分でできること、自分達でできることを
社会やこのまちへ!**

③地域づくり、社会づくり、未来づくり

地域や社会づくりへの参画の価値と、それらをつくっていくビジョンについて講義しました。

足元を見つめ、未来を描いていく!!

様々なものが、少しずつ変わってきたように
これからも、未来が、少しずつ変わっていく!

過去 現在 未来

想うだけでも、未来づくりの一員です!!

異世代交流・学生との協働

学生との協働

【若者・よそ者効果】

- 〇活気、活力
- 〇マンパワー
- 〇新しい風
- 〇子ども達は嬉しい!
(ななめ上の関係)

今回は活動紹介のみならず、仕事とNPO活動の両立による自己実現について解説してほしいとの依頼もあり、就職・職業だけが社会参画ではなく、学生たちが将来の自分たちの生き方について考えるきっかけになるようにテーマ設定しました。少しでも感じるものを得てくれたとしたら嬉しいです。

『共生社会を生きる ～自然との共生～』 まちの足元を見つめ、これからのまちを



- 1 日時 令和2年12月2日(水) 9:00~10:30
- 2 場所 自宅からZOOM録画
- 3 参加者 220人

『共生社会を生きる ～自然との共生～』
まちの足元を見つめ、これからのまちを

●今日のポイント●

- ・まちの足元を見つめるとは？
- ・「自然」とは？
- ・これからのまち“を”・・・？

NPO法人好きっちゃ北九州の活動目的
⇒ **地域愛・コミュニティ**の育み

まちを知ること、見つめること

【地域愛×防災まちづくり】
必ず **地名**・**地形**を確認する！

地名のポイント

- ①音に注目！
- ②地形由来のもの
伝承由来のもの
造語・願望地形のもの
- ③昔の地名が有用
町内会名、バス停、橋など

災害から考える、「まち」と「自然」

先人たちは、**自然と共生**しながら生きていた
水・大地の恵み、時に荒らぶり、畏敬の念

↓

土地の成り立ち、**水の流れ**を知る

↓

自分のまちを見つめ、災害に備える

未来を意識して描いていこう！！

様々なものが、少しずつ変わってきたように
これからも、未来が、少しずつ変わっていく！

過去 現在 未来

想うだけでも、未来づくりの一員です！！

まちづくり・社会参画 ⇒ 共生社会

これから **こんなまち** になったら良いな。

前期に続き後期の授業科目、九州共立大学の「共生社会を生きる」。録画を配信しての講義です。前回の、自然・災害との共生という観点から少しアレンジして、まちの足元を見つめる視点や、これからのまちをいかに描いていくかという話をさせていただきました。

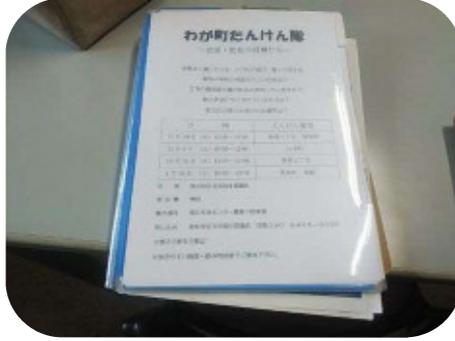
自分のまちを見つめていくなかで、先人達の想いに気付くことがよくあります。有形・無形の文化や伝統のみならず、地形に合わせたまちの特徴・特性や、地名に込めた想いなど、いまの足元を感じることは、これまでの過去に想いを馳せることとなります。同じように未来へと志向を持てると思っています。ひとりひとりが想いを持つことによって、すこしずつ社会をつくっていくものと信じています。

「共生」には色々な姿やカタチがあると思います。今回、講義したことはほんの一部だと思います。いずれにしろ、自分の生き方や生活環境を見つめ直すことが共生を感じることになると思います。より良いまち・社会を築いていけるよう、共生・共創・共存を感じていけたら良いですね。

筒井校区社会福祉協議会 「わが町たんけん隊」



- 1 日時 令和2年11月18日（水）13：00～15：00
- 2 場所 筒井市民センター及び周辺
- 3 参加者 20人



新型コロナにも配慮しつつ、前進して活動したい！という想いの筒井校区社協において、屋内講座ではなく屋外講座にしよう！ということで、「まち歩き」をすることになりました。

主要メンバーでの打合せで、①地域の魅力、②防災、③防犯の3つの観点で、まちを探検することと。

活動での注意点や着眼点をお話していると、それをまとめた資料を作成され、配布いただきました！

改めて、まちの隅々をチェックしていくと色んなものが見えてきました。

傾斜による水の流れ、交差点や道路の危険、見えにくい場所、日陰でゴミのあるところ・・・

一方で、見晴らしの良い場所や、キレイな花が咲いているところ、安全な通路など、校区の良い場所も

改めて実感できました。今回はウォーミングアップ！次回は子ども達と一緒に探検します！



改めて自分たちのまちを見つめる機会となりました。それぞれの気付きや思い出エピソードを共有していきました。それにしても・・・、参加の皆さんはとっても地域のことに詳しい！！昔話や細かな経緯まで！ぜひ、皆さんに共有できるカタチで表現していけると良いですね！次回も楽しみ！！

筒井校区社会福祉協議会 「わが町たんけん隊」



- 1 日時 令和2年12月5日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 筒井市民センター及び周辺
- 3 参加者 30人



今回は、まちの子ども達も含めてのまち歩きです！

2方向に分かれて、①まちの魅力、②防災、③防犯に関する部分を探していきます。

大人の皆さんは前回、実践してみてノウハウを得ており、子ども達を誘導されていました。

車の通りなどの安全確保をしていただきつつ、所々で様々な話を聞かせていただきました。

大人は歩き疲れましたが、子ども達はまだまだ元気！

感想をシェアする際には、「楽しかった」だけでなく、車に気を付けるポイントや水の流れ、元々は川があった場所、好きな場所も話してくれました。



会議室の中から生まれたこの企画。ノウハウもないなかで、まずは大人たちで実践！とにかくやってみる！参加の皆さまも要領を得たあとに、子ども達を交えて実践するというとても良い循環でした。異世代の交流を通じて、まちを見つめていくことはとても有意義と感じました。

小倉南区親子ふれあいルーム『さざん』 ～子育て我が家の防災対策～



- 1 日時 令和2年12月23日(水) 10:30～11:45
- 2 場所 小倉南区生涯学習センター
- 3 参加者 20人



新型コロナの感染拡大が危惧されるなか、広い会場を準備いただき、距離を取りながらの講座となりました。参加者どうしのディスカッションは控えつつ、対話を取り入れて和やかにおしゃべりのような進捗でした。乳幼児・幼児のいるママ・パパの参加で、そうした家庭での対策を話していきました。まずは、じゃんけん形式で、気になっている災害を考えていただき、その理由も添えていただきました。そんな疑問や不安をひとつひとつお話していきました。地震や大雨災害の根拠となる、自然のメカニズムや地形を見ていったりしました。特に災害においては、地域との繋がりが重要であることをお話させていただきました。

今日の目的

～我が家の防災対策～

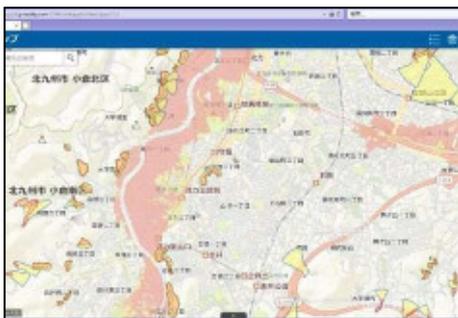
『**幼児がいる世帯の安心**』

- ①住居、家庭内での着目点
- ②災害への必要な備え
- ③地域と防災の関係

「災害」も色々ありますよね・・・
心配なのはどれですか？

その他

地震 風水害



被災地住民が語る
「災害発生の前日に戻れるとしたら？」
『**こ近所**と**あいさつ**がしたい』

災害時には地域の力！

ご近所(互近助)での助けあい

⇒安否確認

⇒日頃からのコミュニケーション

地域でも、『子は鎧』

「地域でも『子は鎧』」この言葉で講座をまとめました。アンケートでは、「もっと近所の人たちにあいさつしたいと思った」「考えてみると、子どもと一緒にいることで色々な人と話すきっかけができていることに感謝したい」という声もありました。

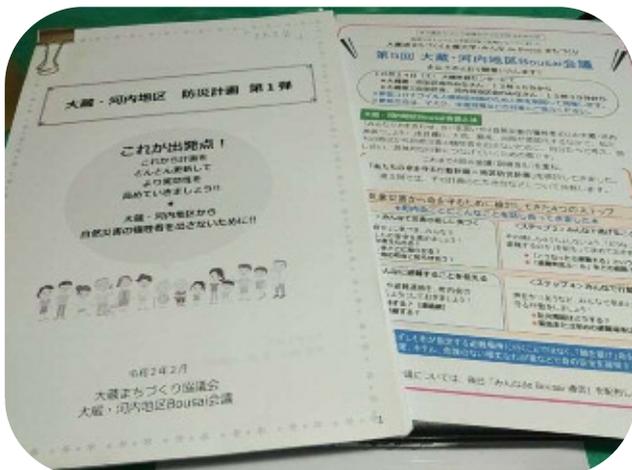
第5回 大蔵・河内地区Bousai会議



- 1 日時 令和2年10月24日(土) 13:30~15:30
- 2 場所 大蔵市民センター
- 3 参加者 55人



令和2年度に開始した大蔵・河内地区Bousai会議。最終回となる第5回会議は、新型コロナウイルスの感染拡大に危惧し、急遽中止となってしまいました。半年以上の間が空いてしまいましたが、ようやく開催することができました。前半・後半の2回に出席者を入れ替えての異例の実施となりました。



最終回は、これまでに議論・検討してきた内容を地区防災計画にまとめるものです。メインファシリテーターの横田さんが校区全体計画と町内会別の計画の案にまとめてくださりました。校区全体の計画として、毎年度の防災訓練の実施や連絡網の充実、既存の取組みを活かすように融合していくことなどが決められました。町内会ごとの計画では、これまでに提出していただいた内容を文面化したものを渡し、それぞれのスキームに足りない点を補足していただく宿題形式としました。年度内には宿題を集め、防災計画を完成させます！

大蔵流まちづくり土曜大学
みんな de Bousai まちづくり
第5回
大蔵・河内地区Bousai会議

＊地区のみんなで共有する目標＊
**みんなで力を合わせ、互いを思いやり
自然災害の犠牲者ゼロの
大蔵・河内地区にしよう！**

全5回の大枠の流れ

- 第1回 備えるべき災害についてみんなで共有しよう！
- 第2回 命を守るために必要なこと
避難場所と連絡方法を考えよう！
- 第3回 実際に訓練をやってみよう！
- 第4回 訓練をふりかえり、
逃げる時を判断できる自分たちになろう！
- 第5回 大蔵・河内地区防災計画。もっと防災力を
高めるためにみんなに伝えていこう！

防災まちづくりを進めることは
互いに思いやる優しいまちづくり。
防災以外の
まちの課題解決にもつながります

「大蔵・河内地区 防災計画 第1弾」は、
このまちの防災の取り組みの新たな一歩。
ぜひ、この活動を続けていってください！

年度をまたいでいることもあり、交代された町内会長さんにも改めて趣旨を説明・確認するところから開始。アンケートの結果においても、「終わりではなく始まり」「今後ももっとやっていく」「多くの人に参加してほしい」などの声を多くいただきました。今後2カ年は「フォローアップ事業」として継続した支援を行っていく予定です！

会議を始めた当初は漠然とした災害への危機感でしたが、ひとつひとつ、熱心に丁寧に、詰めてこられた大蔵・河内地区です。近隣住民どうして思いやり、心配する気持ちが束ねられていったように感じます。新たに策定された地区防災計画に基づき、防災まちづくりが一層進んでいくことを願っています。

平野地区Bousai会議フォローアップ（第1回）



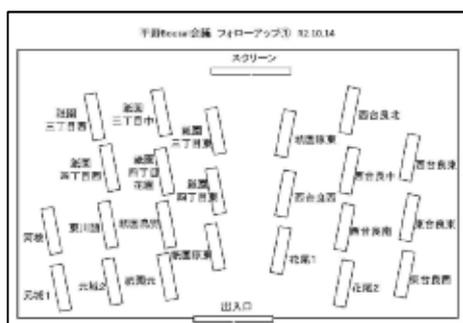
- 1 日時 令和2年10月14日（水）19：00～21：00
- 2 場所 平野市民センター
- 3 参加者 30人



平成30年度に開始したBousai会議、防災まちづくりの検討を進めてきました。会議や訓練での意見・成果をまとめた「平野地区防災計画」を作成していました。その計画に基づいた訓練や、災害時に支援が必要な人の確認などをおこなってきた平野地区です。

令和元年度末と令和2年度の前半については、新型コロナウイルスの感染拡大を危惧し、予定していた訓練や会議を全て中止としましたが、梅雨時期と9月の台風第10号の対応にあたり、校区のなかでの温度差や、現実的に実践できていない課題が見受けられ、急遽3回のフォローアップを行うこととなりました。

今回は、これまでの取組みのおさらいと、防災計画の要点について改めて確認するとともに、ステップの4を重点的に確認しました。町内会ごとの防災計画に、「どこで安全を確保」「どうやって移動するか」を確実に記載していただくようし、提出していただきました。



本日の流れ

1. Bousai会議・地区防災計画の振り返り
2. 現状の課題・懸念していることの整理
3. 実践に向けての情報整理・洗い出し
 - ↳ 避難すべき人の洗い出し
 - ↳ 避難先（どこへ）の検討
 - ↳ 移動手段（どうやって）の検討

*地区防災計画をどんでん書き直しながら考えましょう



町内会ごとの防災計画（詳細）

【ステップ4】

- ①身を守る場所を記入
Q:どこ？
- ②そこまでの移動手段
Q:どうやって？

必ず、この2要素を記入しましょう！

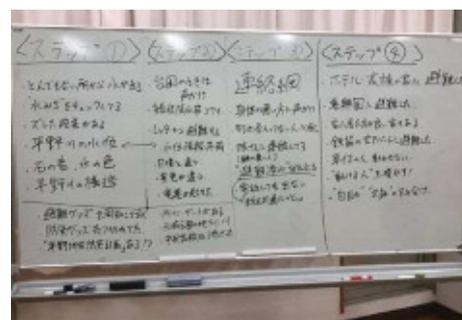
町内会ごとの防災計画（詳細）

【テーマ】

- ・災害の対象や状況
- ・避難すべきタイミング
- ・行動や移動の状況
などを記入しましょう！

【対象世帯・地区】

- ・組や住所
- ・場合によっては個人名
該当する場所を明確に
記入しましょう！

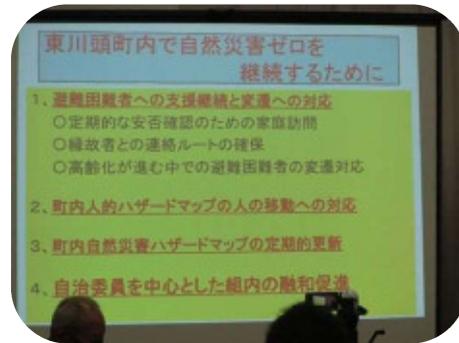


計画を「作って終わり」にせず、それに基づく活動を継続していくことや、上手くいっていない際には立ち止まってしっかり議論していくことが大切です。コロナ禍でも災害は待ってくれず、次の出水期へ向け改めて議論・検討する場を設けた平野地区です。できる限りの支援・フォローアップを行います！

平野地区Bousai会議フォローアップ（第2回）



- 1 日時 令和2年10月28日（水）19：00～21：00
- 2 場所 平野市民センター
- 3 参加者 35人



前回の会議の内容を振り返るとともに、防災計画に追記改正する内容を確認しました。

特徴的であったのが、「避難したことを連絡する」ということで、避難済みを確認しておくことも重要ということを経区全体のルールとして計画に記載することとなりました。

校区の中でも積極的に取り組んでいる東川頭町内会から実践内容を紹介していただき、各ステップの課題や特徴を共有していききました。

特に、ステップ4に際し、身体的な障害がある方や介護が必要な方を移動させることが難しいという課題が多くみられ、自助・共助・公助のそれぞれの役割において、血縁・地縁・知縁のそれぞれを頼りながら取組むことが重要ということを確認しました。

前回提出いただいた町内会別の計画を添削していたものを返し、再び追記修正したものを提出いただきました。

本日の流れ

1. 前回の振り返り
2. 取り組み事例発表_東川頭町内会
3. 事例を共有しながらさらに検討
 - ↳ ステップ4：サポートが必要な人への対応
 - ↳ ステップ3：どうやって連絡する？
 - ↳ ステップ2：何をきっかけに動く？

*地区防災計画にどんどん書き込みながら考えましょう

3つの『ちえん』

血縁

地縁

知縁

災害時に配慮・支援が必要な人への対応

【検討1】 避難の状況と建物構造、身体等の状況	⇒ 建物内での安全確保が困難
↓	↓
【検討2】 近くに住む家族等による支援	⇒ 災害時にも避難者による被害が軽減
↓	↓
【検討3】 近隣住民による避難支援	⇒ 近隣住民による避難支援が困難
↓	↓
【検討4】 日頃の保健サービスとの連携	⇒ 避難者先へ 口移せ手段へ

各町内の事例共有・検討

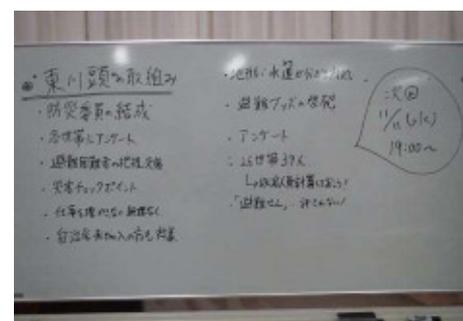
1 **!!**

<ステップ1> みんなで災害の兆しに気づく

何をきっかけにする？

重要な情報は？

ルールを決めておく！



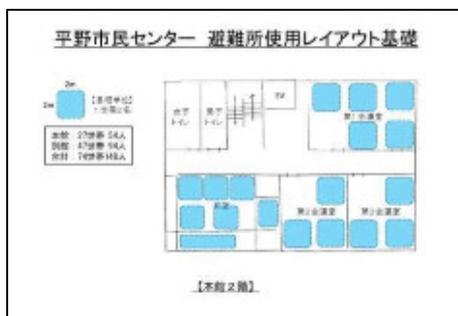
議論されたことは、随時、記載・可視化していき、全体ルールとなり得るものは、ひとつひとつ合意することで、着実に前進しました。皆さんの抱えている疑問や課題も発言いただくことで、それをテーマとした議論の深掘りが進んでいきました。町内会別の計画もどんどん追記いただき進化しています！

平野地区Bousai会議フォローアップ（第3回）



- 1 日時 令和2年11月11日（水）19：00～21：00
- 2 場所 平野市民センター
- 3 参加者 40人

本日の流れ	
1 前回までの振り返り	
2 公的な避難所となる平野市民センターの受入れについて	
3 町内会別「防災計画」の差し替え	
4 さらに検討が必要なこと	
5 「平野地区防災計画」の更新	
6 今後の取組み	
(1) 町内会でのお知らせ（例）	
(2) アンケート（例）	
(3) 校区全体の取組みの検討	
7 アンケートの記載	



アンケート（例）	
アンケートの記入欄	あくまで「例示」です。
	・各世帯の考えを確認！
	・「自助」の引上げ！
	・詳細情報の確認！ ⇒氏名記載欄が必要！
	・アンケートをきっかけに考え始める！？

平野地区の避難の課題として、予測しづらい土砂災害から「いつ避難するか」が重要な課題であり、公的に開設される平野市民センターの受入れについて疑問視されていました。

第2回会議後に、地域住民の皆さんで、受入れ人数の確認や受入れ順の確認、受入れ方針などを検討してまとめました。それらについて会議の場で共有しました。

町内会ごとに記載してきた防災計画は、格段に精度を増し、内容が充実したものを全体で共有しました。

前回まで議論されてきた課題として、住民の「自助」の底上げや趣旨・想いの共有や伝達が必要。

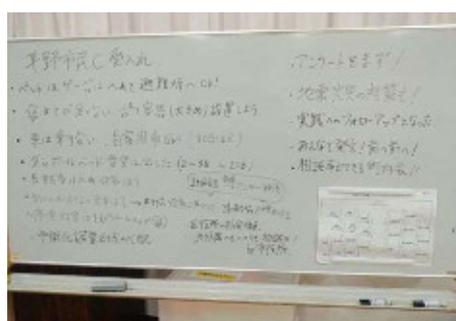
「アンケート」と「お知らせ」の例示を共有し、町内会ごとに主体的に作成することとしました。

また、各ステップに沿って、課題や事例をゆっくりと共有していき、様々な意見が生まれました。

校区全体の計画の中に記載する内容についても、ひとつずつ確認していきました。

3回のフォローアップを通じて、議論された内容を更新版地区防災計画に書き込みます。

これまでの取組みの振り返り
H30年 1月15日：防災まちづくり集会
H30年 8月29日：平野地区Bousai会議①
9月26日：平野地区Bousai会議②
11月17日：平野地区Bousai会議③【訓練】
12月12日：平野地区Bousai会議④
H31年 1月23日：平野地区Bousai会議⑤【計画策定】
R元年 6月 6日：防災訓練&フォローアップ集会
R2年 3月 6日：フォローアップ防災訓練【中止】
R2年10月14日：フォローアップ会議①
10月28日：フォローアップ会議②
11月11日：フォローアップ会議③【計画更新】



前回の会議に続き、オンライン配信についてもチャレンジしました。

コロナ対策のため参加できないメンバーや地域住民が、自宅から観れたり、事後で録画を見たりできれば会議やワークショップの可能性は、より広がるものと考えます。

現場とオンライン配信を融合した仕組みづくりについて、引き続き勉強！実践してみて、ノウハウを蓄積していければと思っています。

北九州市の事業による2カ年のフォローアップはこれで終了となりますが、地域住民の皆さんで、防災まちづくりに対して主体的に取り組んでいくための素地は十分に見ついたと感じます。今後においても、好きっちゃ平野！のまちづくりに、支援・応援していきたいです。

八枝市民センター生き生き子ども講座 あそぼうさい



- 1 日時 令和2年9月5日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 八枝市民センター
- 3 参加者 15人



台風第10号接近中のこの日、コロナに負けず！あそぼうさい子ども講座を実施！あそぼうさいプログラムは接触を伴うものが多いため、感染防止対策に万全を期すとともに、実施内容も考慮して選択した8個のプログラムを実施しました。以下の2つの内容は新たに開発・実施することができました。



【New!】緊急速報ハンドベル♪

避難の情報が発令されたときに、携帯電話に緊急速報メールが届きます。チャラララ〜、あの何とも言えない音を再現します！

使わないハンドベルや2度使うものも。最初の音を探したり、子ども達の耳の良さに感心しました。話し合いや試行錯誤の末、リズムよく、音が完成したときには拍手が起こりました！



【New!】河川水位を監視せよ！

中央に金山川が流れ、川と共存するこのまち。河川水位を監視できることを学び、シミュレーションで体験してみました。疑似的に水位が上がっていく映像を用意しておき、遊んでいる最中にもどんどん水位が上がっていきます！

ダーツに熱中している小さい子に「水位が上がったよ、逃げるよ！」と声をかけていた姿に感動しました。

体験！体感！で楽しく学ぶ「あそぼうさい」。コロナ対策を施しつつの初めてのチャレンジでした。五感のうち、聴覚で楽しめるプログラムが作成できたのはとても嬉しかったです。また、このまちの特性に合わせて、河川を対象としたプログラムが作成できたのも大きな成果です。

南丘プレイキッズ2020 命を守れる人になろう！「あそぼうさい」



- 1 日時 令和2年9月19日（土）13：30～15：30
- 2 場所 南丘市民センター
- 3 参加者 30人



地域の皆さんと一緒に、子ども講座「あそぼうさい」を実施しました！
コロナ対策を施しつつ、7個のプログラムを実施し、以下の2つの内容は、新たに開発・実施しました。防災を学ぶだけでなく「職業体験」もテーマのひとつに。
タクシー会社、音楽の先生、公務員、警察官、消防士、それぞれの特徴に合わせてプログラムを展開しました。



【New!】溺れてる人を助けろ！浮き輪に「魔法結び」
川、海、池などで溺れている人を助けたいとき、
素早く浮き輪にロープを結ぶにはどうしたら良い？
結べて不思議？解いて不思議？な「魔法結び」
まずチャレンジ！正解を見せてあげて、とにかく
やってみましょう！！コツがつかめたかな？
地域の皆さんからも「絶対覚えておくと良いよ！」と
熱の入ったご指導をいただきました。



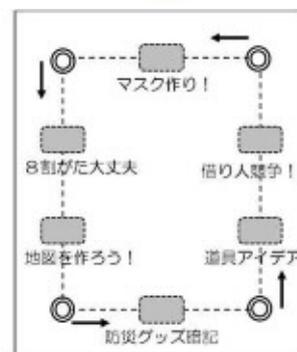
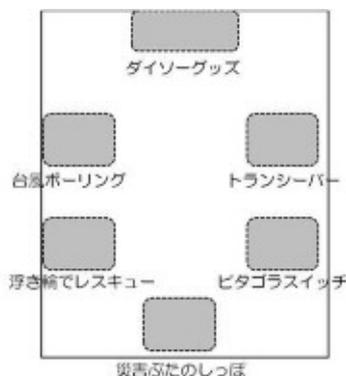
【New!】あそぼう×防犯＝あそぼうはん！？
地域のなかで子ども達を取り巻く環境において
防犯もとっても大切なことです。
犯罪の起きやすい場所、安全な場所、それぞれの特徴をクイズ形式で順に確認していきました。
子ども達も地域の皆さんも真剣に考えていました。
自分の身を、自分たちのまちを安全に！
大切な想いを学びました。

地域のなかで、防災を通じた異世代交流を図るために開発してきた「あそぼうさい」。
今回は、地域の皆さんも参加いただき、一緒にゲームを楽しんだり、補助・指導いただいたり、とても
良い講座となりました。こうした講座のカタチをより一層構築していきたいと感じました。

長尾市民センター地域みんなで「あそぼうさい」



- 1 日時 令和2年12月12日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 長尾小学校体育館
- 3 参加者 40人



タイトルのとおり“地域みんなで「あそぼうさい」”地域の皆さんも指導者側になっていただくように、説明資料をみていただき、それぞれのブースを担当していただきました。また北九州市立大学防犯・防災プロジェクトMATE'sの皆さんとも一緒に、企画段階からコラボ実施しました！



コロナ対策もあり、広い体育館で距離をとりながら。

まず、キッチンペーパーでのマスク作りから始まり、

前半は、6つのブースを自由に回って遊びました。

後半は、「あそぼうさいサーキット」を実施しました。

四隅の4グループに分かれて、同じ方向に回りながら、各ブースを攻略し先に一周したチームが勝ち！というものです。

今回も多くの新規プログラムが生まれました！

【New!】100円均一グッズで防災カルタ

【New!】パズルで地図をじっくり見よう！

【New!】「借り人」競争

北九大MATE'sからも新ネタを実施していただき、あっと言う間の盛りだくさんな2時間になりました！



地域の皆さんに、「見学者」や「参加者」にならずに、「実施者・指導者」になっていただく初めての試みでした。プログラム資料を共有し、一緒にブースを運営してみると、皆さん大活躍！こうしたプレイヤーの広がりはおそぼうさいの広がりにも直結するはずだと思いました。

西戸畑市民センター 子ども講座 地域みんなで「あそぼうさい」



- 1 日時 令和3年3月25日(木) 10:00~11:30
- 2 場所 西戸畑市民センター
- 3 参加者 33人



小学生は、春休みの初日。市民センターの子ども講座で「あそぼうさい」を実施しました。

明治学園の高校生、「自然災害と防災・減災チーム」とコラボで実施しました。「あそぼうさいプログラム集」を用いて各ブースを担当していただきました。

【前半：高校生指導のもと4つのブース】

- ①台風ボーリング、②災害ダーツ、③ぶたのしっぽ、④ダイソーグッズの4つを自由に回ってもらいました。

明治学園の高校生たちは初めて指導する内容にも関わらずあそぼうさいプログラムをしっかりと読み解き、自分の言葉で指導していただきました。

【地域の皆さま、飛び入り参加！】

近くの公園にいらっしゃった地域の皆さまも急遽参加いただき子ども達と一緒にあそぼうさいを楽しんでいただきました！多世代にわたるとても面白い雰囲気になりました。

【後半：全体で進行、世代間対抗戦も！】

- ①防災グッズ暗記ゲーム、②台風実感屋内避難、③バケツリレーを順次実施していきました。

暗記ゲームやバケツリレーは、子ども達・高校生・地域の皆さまの世代間での戦いとなりました。いざ競争となると盛り上がります！また、比較的災害の少ないまちですが、地震・台風は皆さんの興味・関心がとても高かったです。

高校生の皆さんによる指導は、すぐに子ども達の心を掴みとても楽しそうに実施していました。こうした若いエネルギーはひとつの能力で、子ども対象の事業では、とても効果的です。これからも学生たちとの協働を大切なテーマとして取り組んでいこうと思いました。

